

団塊のカタログ

トシタロー・クラフィティ

引き続き昭和32年なのだ。文句あつか。

勤務評定

公立校教員の昇給・昇格の資料として新たな
キンピョー
に勤務評定の導入が決定された。

教員の勤務成績を計画性・指導力などで生徒と同じように5段階評価しようというもので、早い話がセンサーの通信簿である。

今も昔も、良い先生・悪い先生・普通の先生はいる。なにかで評価をするのは当然なのになんで大騒ぎするのか不思議だったが、この年の11月に評定書未提出校教員の年末手当を支給しない方針が決定されてから本格的な騒動になる。カネがからめばホンネが出るのが世の常、公務員にスト権は認められていないので、まず教員側は一斉休暇や授業打ち切りなどのセコい順法闘争で対抗する。

やがて日教組と文部省の板ばさみで悩む教員や教育長・校長の自殺が相次ぎ、大学の自治会や部落開放同盟など関係のない団体も顔を出すようになり、一気に社会問題化する。

革新知事が誕生したばかりで意気上がる京都では、部落解放同盟の幹部に引率された小・中学生140人が府庁にドツと押しかけ、その内の30人ほどが府議会を占拠、赤とんぼ・タヤけ小やけの合唱から始まって、民族独立行動隊の歌まで飛びだす有様だった。

校長も大変だ。高知では組合から不信任案を突きつけられたかと思えば、逆に教育委員会から免職・停職処分されてしまうというから、そりゃ自殺者も出るのもわかる。

群馬では保護者が教員を学校に閉じ込めたり締め出したり、しまいには殴り合いにまでなるが、子の学業の遅れを恐れる親を敵にしては勝ち目はない。教員側が優勢だった高知でも日教組の委員長が保護者に殴られて重傷を負ってしまう。教員側は一斉休暇届を出して抗議するものの、2割は登校して子供たちの保護監督にあたるというから情けない。

勤務評定を自己反省の記録とする神奈川方式で合意しかかるが文部省は認めず、47年には「教員の勤務評定をしなかった」としてクビになった元校長が処分取り消しを訴えていた裁判で東京地裁は請求を棄却、勤務評定闘争は文部省側の一方的勝利に終わった。

教育問題が議論される度に誰もが「主役は子供」を強調するが、実際は子供そっちのけで大人同士のナワバリ争いがホンネ、となれば我が国では管理する側が圧倒的に強い。

50年の国鉄スト権ストが国民の支持を得られなかったのと同様、勤評闘争も保護者を敵にまわしたのが致命的で、日教組の骨抜きと内部分裂そして保護者ばなれを狙った政府のタクラミはまんまと成功、校長に逆らわないセンコーが出世するシステムがもののミゴトに確立された。キンピョー闘争以降、文部省と日教組は「どうせ国民の税金だあ」ってんで和解する。あれから40年、今では公立校教員の給料は一般公務員や私学教員よりはるかに高い。生徒へのワイセツ行為も暴力も公金横領もウエルカム、教育委員会はかばってくれるし、議会も「良きにはからえ」で知らんぷり、それが松戸の現状だってば。

東京だよおっ母さん

ロックンロールの全盛時代で、数か月遅れで日本でもヒットしたもんだ。プレスリーの監獄ロック、リトル・リチャードのジェニ・ジェニ、パット・ブーンの砂に書いたラブレターなどだが、歌謡曲も負けてはいない。

♪ 久しぶりに 手をひいて
親子で歩ける うれしさに
小さい頃が 浮かんできますよ
おっ母あさん
ここが ここが二重橋
記念の写真を とりましょうね

今は昔、**集団就職**なんてのがあった。

体に気を付けろよ、手紙よこせよ、たまには帰って来いよ……別れを惜しむ家族や友人を駅のホームに残し、汽車は出てゆく。

何年か過ぎて東京の生活にも慣れたそんな女のコが、親孝行の一環として故郷のおっ母さんを夜行列車で呼び寄せ、東京案内をするのである。皇居の前で記念写真を撮った後はお堀を左折して九段方面に歩いてゆく。

♪ やさしかった 兄さんが
田舎の話を 聞きたいと
桜の下で さぞかし待つだろ
おっ母あさん
あれが あれが九段坂
逢ったら泣くでしょ 兄さんも

九段坂を登り切ったところに靖国神社があって、そこには国の為に戦って死んだ軍人がまとめてまつられている。

どうやらこの女の子の兄さんは先の大戦で戦死したようで、おっ母さんの上京の目的の

一つにお参りもあったのだろう。

別に桜の木の下で待ち合わせたわけではないのだが、この頃のワシは小学4年生、靖国神社と湯島神社の違いすらわからなかったから、長い間はなればなれだった母親と兄と妹の3人が涙の再会をするシーンの描写だとばかり思いこんでいたものである。

この後、おっ母さんは浅草の観音様をお参りして田舎に帰るのだが、いかにもお上りさんコースなので、ひょっとしたらあのはとバスのイメージソングではないかと思って、お茶目にも電話をかけて聞いてみた。

結論は「ノー」であったが、確かにとはとバスの成長期とは一致していて、その意味では次の「東京のバスガール」同様、間接的な宣伝効果は否定できないとのことであった。

あれから40年以上たつ。皇居と浅草は相変わらずの人気であるが、靖国神社はすっかり影が薄いらしい。毎年8月、閣僚が公式参拝するかしらないかで騒がれるだけだ。

東京のバスガール

もう一つのはとバスのイメージソング(?) 東京のバスガールだが、歌っているのはコロムビア・ローズ、前年の「どうせ拾った恋だもの」に続いてのヒットである。

この曲もそうだが、戦後の日本の歌謡曲はなぜか職業を紹介する曲がやたら多い。

昭和23年の長崎のザボン売りから始まって26年ひばりの花売り娘、30年カスバの女(エト邦枝)、おんな船頭歌(三橋美智也)、娘船頭さん(美空ひばり)などで、タイトルだけでズバリわかる。この中に星の流れに(22年。菊池章子)を入れたら中田京^{オトコいらす}に女性蔑視だってんでまた訴えられるだろーか。

いずれも女性の職業だが、26年東京シューシャインボーイ(暁テル子)、28年街のサン

ドッチマン（鶴田浩二）、31年若いお巡りさん（曽根史郎）になると男性限定版だが、さて東京のバスガールである。

♪若い希望も 恋もある

ビルの街から 山の手へ
紺の制服 身につけて
私は東京の バスガール
「発車オーライ！」
明るく明るく 走るのよ

「次は第三小学校前、第三小学校前でございます。お降りの方はお知らせください。発車オーライ」そんな彼女たちが目に浮かぶ。

今のバス、お客は自分で現金をほうり投げるし、停留所の案内はテープがするが、かつてはバスガールがまとめて担当していた。

紺の制服をピシッと身に付け、ガマ口のかいのを首にぶら下げ、その中にキップとハサミが入っている。バスの中央あたりに陣取って切符を切ったり売ったりするのだが、時には車内を回らなくてはならない。

この頃のバスはやたら揺れるし、ラッシュ時には身動き一つ取れないことだってあるのに、両足をふんばり、吊り革やパイプをたどりながら人波をかきわけ、健気にキップをさばくのが東京のバスガールなのだ。

♪昨日心に とめた方

今日はきれいな 人つれて
夢ははかなく 破れても
くじけちゃいけない バスガール
「発車オーライ」
明るく明るく 走るのよ

独身で背が高くてハンサム、一流企業のエリート・サラリーマンらしい彼氏に一目ボレしたのは良いのだが、彼女を連れてきた。

キッパリあきらめているように見せかけて心の底では「絶対許せない！」と思っている筈だが、引きつった笑顔ががなんともイジらしい。で、3番はさらにキビしい。

♪酔ったお客の 意地悪さ

いやな言葉で どなられて
ほろり落とした ひとしずく
それでも東京の バスガール
「発車オーライ！」
明るく明るく 生きるのよ

今でいうセクハラ、あまり人のことは言えないが、酔った勢いで勤務中の女性に客の立場でカラムのは男として最低である。

それでも健気に働く東京のバスガールであったが、昭和40年代に入って様相が変わる。

マイカーの普及が道路渋滞を招き、地下鉄網が充実するようになったこともあってバスそのものの需要が落ち込み、経費節減のためワンマン化するようになり、バスガールは完璧に姿を消す。そしてバスに乗り込む職業女性はガイドさんだけになってしまい、本来は女の車掌さんを歌ったはずの東京のバスガールがはとバスのイメージ・ソングになってしまった、というわけである。

それはさておき
閑話休題、はとバスはあくまでも遊覧バスであって、路線バスではない。

だからして、昨日心に決めた方が今日はきれいな人つれて乗るはずがない。

中には酔ったお客が意地悪することもあるだろうが、そんなことを車内のお客さんにメソと向かって言えるわけもない。

あれから40年以上たっているが、50代以上のお客さんからのリクエストは多い。

ガイドさんの生まれる前の曲だけど、お義理で1番だけ歌われるようで、2番はともかく、そりゃ3番はカットするわな。

錆びたナイフ

前年に衝撃のデビューをした石原裕次郎、この年の俺は待ってるぜと錆びたナイフでは主題歌も歌い、映画同様大ヒットする。

♪ 砂山の砂を 指で掘ってたら
真っ赤に錆びた
ジャックナイフが 出て来たよ
どこのどいつが うずめたか
胸にジンとくる 小島の秋だ

この頃の小学生の憧れの一つにジャックナイフがあった。もともとは海軍用の大型折り畳みナイフだが、安全装置をひっくり返して押せば刃先がピッと飛び出る。

この錆びたナイフをキッカケに、アロハシャツや慎太郎刈りと並んで不良少年のステイタス・シンボルになっていた。クリッカー一発で刃が飛び出てくるところがカッコ良かったが、危険だし実用性もないというので金物屋さんにはおいてなかった。あったとしても小学生には売ってくれないし、親が買い与えるわけもないのになぜか持っている奴がいて、そいつの家まで行って触ったことがある。

全体がクリーム色のプラスチックで、すべり止めにチョコレート色のギザギザが付いている。「触っていい?」「触るだけだよ」

持つと結構重い。むろん触るだけでおさまるわけがない。カチッ、ピュッ、何回かやってみるがうまくいかない。見せびらかされれば欲しくなるのは大人も子供も同じだが、簡単に手に入るものでもない。

そこで肥後守で代用してみたが、そもそも鉛筆けずりの悲しさ、刃先がワンタッチで飛び出さないのはしょうがないとしても、止め金がないからヘタすれば指を切ってしまう。

ボンナイフよりはましたが、カッコいいとはいえない。はっきりいってダサい。

ここで登場するのが十徳ナイフである。

この頃のワシ、湯島小学校の授業が終わるといったんウチに帰り、宿題をほったらかしにして、自転車で5分ほどの不忍池までツーリングするのが日課であった。

そこには弁天堂があって、参道の両側には大道商人が店を開いていたもので、これがまたなにも買わなくても結構楽しめる。

怪しげな軟膏を売るガマの油売り、太い筆を巧みに操ってヘビの絵を一気に書き上げるヘビ絵描きなどに混じって、十徳ナイフ売りがいた。なにが十徳かというと、まずはもちろん①折り畳み式ナイフで、これが②磁石で出来ている。ナイフ本体の背の部分に取り外し式の③鉄製耳かきがあって、これを吊り上げて磁力があるところを立証する。

この耳かきの端に小さな穴があいていて、パンツの④ゴム通しになる。さらに折り畳み式の⑤缶切り⑥フォーク、⑦ドライバーはハラの部分が⑧爪ヤスリで、⑨ガラス切りは起こせば⑩栓抜きだ。これだけの装備がついてたったの100円、持ってけドロボー、さあ殺せ、この口上を聞いているだけでも楽しい。

ラーメン一杯が40円のご時世だから、そんなに安くない。小学生の小遣いじゃちょっとキビしかったが、ある日衝動的に買ってしまった。親に見つからないように机の引き出しの奥にこっそり隠しておいて、時々ひっぱり出しては、あちこちいじりまわしてニヤニヤしていたのだから、結構クワイ。

それはいいのだが、小学生にナイフを使う機会などそうそうないし、その他の機能にしたって家にあるものばかりだから、得になるものではない。そんなこんなですく飽きてしまい、気が付いたら錆びたナイフになってしまったのはいうまでもない。